

## A 即日検査に用いる検査法(迅速検査法)について

**Q-1**

従来法とどこが違うのですか？

**A** HIV即日検査に用いられる迅速検査法もHIVの抗体検査法であり、この点は従来のHIVスクリーニング検査法と同じです。従来法と異なるのは、イムノクロマト法を用いたキット(ダイナスクリーン・HIV-1/2)を使用した場合、血清、血漿または全血等の検体を滴下しそのまま静かに置いておくだけで、15分後には結果が判定できる等、検査に特別の機材を必要としないことと迅速に結果が得られる点です。ただし、迅速検査では通常の抗体検査法に比べ偽陽性がおおよそ1%(従来の抗体検査法の偽陽性0.3%程度)と多いため、その使用にあたっては、この偽陽性問題に関して十分な配慮が必要です。

**Q-2**

検査に必要なものは何ですか？

**A** HIV抗体迅速測定キット(平成16年3月現在、迅速キットとしてはダイナスクリーン・HIV-1/2が認可されている)、マイクロピペット、マイクロピペット用チップ、遠心機(全血で検査する場合は不要)、結果判定図、結果記録台帳等が必要です。本キットを用いた検査結果の判定は特別の装置を使わず肉眼で行いますが、微量検体の扱いや、微妙な判定ラインの読みとり等も必要なため、検査に習熟した人が検査を担当することが望まれます。また、即日検査の導入にあたっては、迅速検査キットの使用法、判定法、陽性検体の確認検査等について、研修等により十分習熟しておくことが必要です。

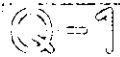
**Q-3**

迅速検査の検査結果は信頼できますか？

**A** 迅速検査はHIV抗体スクリーニング検査法の一つとして、通常のHIV抗体検査法と同様にその検査結果は信頼できます。通常のHIV抗体検査法で陽性となった感染者検体を用いた感度比較では、迅速検査法もほぼ同等の検出感度であることが確認されています。ただし、偽陽性がおおよそ1%と通常検査に比べやや多いため、迅速検査で陽性の場合、その対応とその後の検査の進め方については、十分検討し整備しておくことが必要です。



## B 迅速検査で陽性（要確認検査）の場合



その場合の確認検査はどのように行われますか？

### A ① 追加試験（抗原抗体同時検査）による偽陽性例の除外

通常、抗体スクリーニング検査で陽性となった場合、WB法で抗体の確認検査を行います。しかし、現在使用可能な迅速検査（ダイナスクリーン・HIV-1/2）の場合偽陽性が多いこともあり、確認検査の前に抗原抗体同時検査等の追加試験を加えることで、偽陽性を除外することが可能です。抗原抗体同時検査法では感染初期の抗原陽性期（抗体が検出される前）からHIV感染の検査が可能であり、また抗体も迅速検査に比べより高感度に検出できます。このため、迅速検査で陽性であっても追加試験の抗原抗体同時検査で陰性であればスクリーニング検査陰性、即ち迅速検査が偽陽性であったと判定できます。抗原抗体同時検査キットとしては、現在、3試薬（バイダスHIVデュオ、シェンスクリーンHIV Ag-Ab、エンザイグノストHIV インテグラル）があります。バイダス HIV デュオ（日本ピオメリュー社）の場合、1検体ずつの検査が2時間で可能です（ミニバイダス等のペロ毒素検査等にも用いられている中型専用機器が必要）。北海道立衛生研究所の検討結果では、迅速検査の偽陽性例19例中19例とその全てが抗原抗体同時検査（バイダスHIVデュオ）で陰性となりました。このため、即日検査の結果返しまでに時間的余裕があり、専用機器の導入と操作が可能な施設においては、即日検査の陽性（要確認）例を大幅に減少させることが可能です。即日検査陽性で抗原抗体同時検査でも陽性となった場合には、真の陽性（感染）である可能性がかなり高く、WB法等による確認検査を慎重に行うことが必要です。

### ②WB法等による確認検査

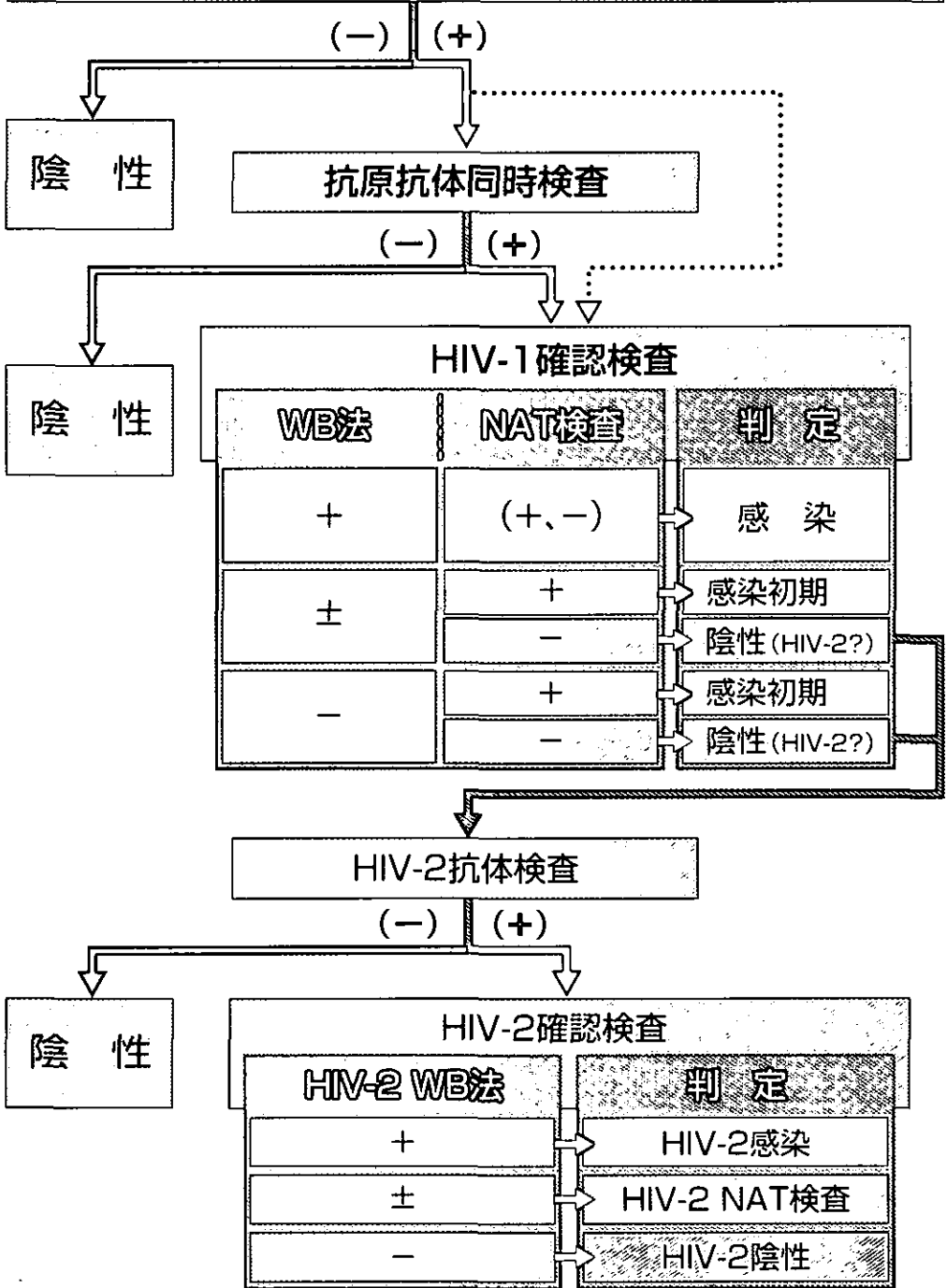
迅速検査陽性（要確認検査）であり、追加試験でも陽性（検査数数の少ない施設では迅速検査の陽性例も少ないため追加試験の省略も可能）の検体については、WB法と必要に応じて核酸増幅検査等を用いてHIV確認検査を行います。WB法で陽性の場合にはHIV抗体陽性（HIV感染）と確定できます。WB法で判定保留または陰性の場合には、IgG抗体が極めて微量かIgM抗体のみが上昇している感染初期の可能性が残るため、核酸増幅検査によりHIV遺伝子の検出を行います。核酸増幅検査で陽性であればHIV感染初期と考えられます。核酸増幅検査陰性かつHIV-2抗体も陰性であればスクリーニング検査の陽性結果は偽陽性であったと確定できます。

感染リスクから2ヶ月以内に検査を行った場合には、非感染を確定するためには2ヶ月以上経過してからの再検査が必要です。また、WB法で判定保留

の場合に、核酸増幅検査が行えない場合には、数週間後に再検査を行い、抗体の上昇から感染初期であったかどうかを確認することも可能です。受検者の精神的負担を考えるとできるだけ再検査を避けられる検査体制(広域的検査協力体制や研究班との協力体制等)を構築しておくことが望まれます。

### HIV迅速検査実施フローチャート

#### HIV迅速検査(HIV-1/2)抗体検査



Q-2  
 偽陽性とはなんで  
 すか？

A HIVに感染していないのにHIV抗体検査で陽性の結果になることです。その原因の一つとして、抗体の交差反応(HIV抗原とたまたま反応する抗体による反応)等が考えられますが、その本当の原因はほとんどの場合に不明です。ただ、偽陽性の場合、異なる検査法・検査キットでは陰性となることも多いため、異なる検査法の組み合わせ(PA法とEIA法等)により、偽陽性を減少させることが可能です。迅速検査の場合には、上述の抗原抗体同時検査を用いて、偽陽性のほとんどを除外することが可能です。

Q-3  
 Q-2 偽陽性の頻  
 度はどの程度ある  
 のですか？

A 迅速検査の場合、血清や血漿を用いた検査ではおよそ1%、全血を用いた検査ではおよそ0.5%の偽陽性があります。通常HIVスクリーニング検査ではおよそ0.3%の偽陽性があります。

Q-4  
 迅速検査陽性(要確  
 認検査)の中で占め  
 る“真の陽性”(感染  
 者)の割合はどれく  
 らいですか？

A 迅速検査で陽性となった人の中で“真の陽性”(感染者)が占める割合、あるいは偽陽性が占める割合は、受検者集団における偽陽性率と感染率(感染者の存在率)により異なります。迅速検査受検者における感染者の割合が千分の一、偽陽性率が百分の一の場合に1000人が受検した時を考えてみます。迅速検査の結果では、偽陽性による陽性が10人と感染者による陽性が1人の計11人が陽性となります。迅速検査で陽性となった人の内、感染者は1/11の9%のみです。これを陽性的中率と表現します。陽性的中率は検査の精度だけでなく受検する人々における真の陽性者(HIV感染者)の割合(感染率)に大きく依存しています。もし、受検者における感染者の割合が100人に1人(1%)の場合は、迅速検査陽性者の50%が真の陽性(感染者)となります。保健所における受検者の中での感染者の割合は平均1000人に3人(0.3%)ですから、迅速検査陽性者中の真の陽性(感染者)は平均ではおよそ3/13(23%)となります。

Q-5  
 迅速検査の偽陽性  
 を見分ける方法は  
 ありますか？

A 迅速検査では結果を肉眼で判定しますが、非常にうすい(弱い)バンドの場合は、ほとんどが偽陽性ですが、感染初期の抗体価の低い時期の可能性も否定できません。また、非常にはっきりしたバンドであっても偽陽性の場合もあり、迅速検査のバンドの見え方から偽陽性を判断することは困難です。上述のように、抗原抗体同時検査等の追加試験を行うことができれば、ほとんどの偽陽性を除外することは可能です。

## Q-6

追加検査(抗原抗体同時検査)でどれだけ偽陽性を除外できますか？

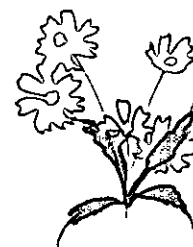
Ⓐ 抗原抗体同時検査法では、検体中のHIV抗原とHIV抗体のいずれをも同時に検出できるため、抗体検出法に比べ感染初期(抗体への陽転前の抗原陽性期)からHIV感染の検査が可能です。従って、迅速検査で陽性であっても抗原抗体同時検査法で陰性であれば、迅速検査の陽性が偽陽性であると確定できます。迅速検査の偽陽性検体のほとんどが、抗原抗体同時検査法では陰性となるため、迅速検査の陽性検体に追加検査として抗原抗体同時検査を実施することにより、迅速検査の偽陽性のほとんどを除外できることが確かめられています。

北海道立衛生研究所での保健所検体2242検体(血清)を用いた予備試験では、迅速検査陽性が27例あり、その中で、抗原抗体同時検査のできた検体が19例あり、19例全例が抗原抗体検査陰性で、迅速検査の偽陽性(HIV非感染)との結果を得ています。また、東京都内の民間クリニックでの即日検査4714例(全血)では、迅速検査陽性40例中、抗原抗体同時検査陽性が26例あり、その24例が真の陽性(HIV感染)で、2例は確認検査陰性(HIV非感染)との結果を得ています。また、40例中、抗原抗体同時検査陰性の14例については、その全例が迅速検査の偽陽性(HIV非感染)であることが確認されました。

## Q-7

迅速検査陽性(要確認検査)をどのように説明したらよいですか？

Ⓐ 上記のように迅速検査では偽陽性が多いこと、また陽性的中率が平均では23%と低いことを十分考慮して、ガイドライン本文(12ページ)を参考に迅速検査の陽性の意味と確認検査の必要性、今後の相談体制等を十分説明して下さい。



## C 迅速検査で陰性の場合

Q-1  
陰性であれば感染していないと言えますか？

A 迅速検査で陰性であればHIV抗体が検出されないことから、感染リスクから2ヶ月以上経過し、ウインドウ期を過ぎている場合には感染していないと言えます。

Q-2  
検査時期がウインドウ期間内の場合には再検査が必要ですか？

A 感染リスクから2ヶ月以内(ウインドウ期)の人が検査を受け、陰性となった場合には、感染していないことをはっきりさせるためにはウインドウ期(2ヶ月)を過ぎた後での再検査が必要です。

現在の抗体検査法は以前に比べかなり改善されており、検出感度も高くまたIgM抗体も検出できるため、通常は感染後1ヶ月くらいまでに抗体が検出されます。したがって、リスク後2ヶ月以内であっても迅速検査で陰性であれば、感染の可能性はかなり少なくなると考えられます。感染不安があり検査を希望する相談者には、2ヶ月内であっても、ウインドウ期のこと、検査時期と結果の解釈、再検査のこと等も十分説明し、検査を受けるかどうか判断してもらうことが重要です。

Q-3  
迅速検査で陰性の場合にはどのように説明したらよいですか？

A 迅速検査で陰性、即ちHIV抗体が検出されず、2ヶ月前まではHIVに感染していなかったと言えることを説明します。検査前の2ヶ月以内に感染リスクがあった場合には、感染していてもまだ抗体が検出されないという可能性も否定できないため、感染リスクから2ヶ月以上経ってからもう一度検査を受ける必要があることを説明します。また、今後の生活におけるリスク回避の必要性や、必要に応じて、今回の陰性結果が今までの性行動等の安全性を意味するものではないこと、すなわち、今までの性行動等に感染の危険性があっても、たまたま運良く感染しなかったという可能性もあるため、感染リスクを今後とも慎重に避ける必要があることも説明します。(ガイドライン12ページ参照)



**D 感染リスクから2ヶ月以内(ウインドウ期間内の可能性)の検査について****Q-1**

検査することに  
意味はありますか？

**A** 感染不安を感じてエイズ相談をする人の中には、感染リスクから2ヶ月以内の人もかなり含まれている可能性があります。これら、比較的最近のリスクに対して感染不安を抱いている人々に対して、検査機会も含めた十分な相談機会を提供することは、感染の早期発見や感染リスクの低減、感染予防等の観点からも極めて重要です。また、感染初期の可能性のある人に対して検査機会を提供することは、検査目的の献血を防止し、輸血後HIV感染を防止する意味でも極めて重要です。

**Q-2**

ウインドウ期間内  
でも陽性となるこ  
とはあるのです  
か？

**A** 迅速検査法も含めて現在の抗体スクリーニング検査は検出感度も鋭敏で、IgG抗体に加えIgM抗体も検出できるため、以前の検査試薬に比べ、かなり早い時期から抗体を検出できるように改善されています。その結果、多くの場合、感染後1ヶ月くらいまでに抗体が検出されます。この時期にも迅速検査が陽性となった場合には、抗体価が低かったり、IgM抗体の時期であったりするため、WBでは判定保留または陰性となる可能性があります。このような場合には、抗原抗体同時検査法等による追加試験や核酸増幅検査による確認が必要です。そのためにも、全ての受検者に感染リスクの時期を確認しておくことが重要です。

**Q-3**

陰性の場合どのよ  
うな意味がありま  
すか？

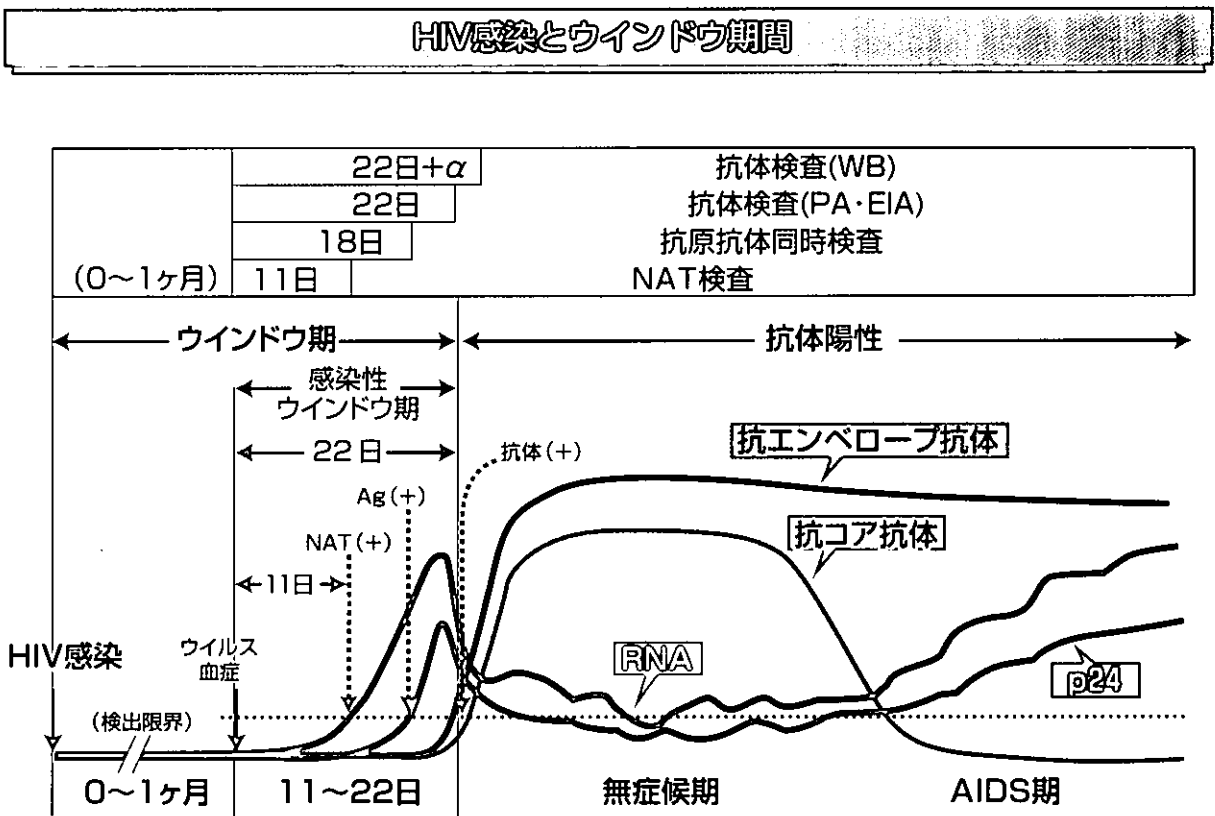
**A** 感染から1ヶ月程度で抗体が検出されるケースが多いことから、もし感染を疑う時から2ヶ月以内であっても、迅速検査で陰性となれば、感染している可能性(確率)はかなり低いと考えられます。感染リスクがあった時からどの程度経過(1ヶ月以上か否か等)しているかによって陰性の意義は異なってきますので、その時期や症状を考慮して解釈することが必要です。いずれにしても、感染していないと言い切るためには、感染機会(コンドームを使わない性行為等)があってから2ヶ月以上経過した後での再検査が必要です。

**Q-4**

陰性の場合再検査  
は必要ですか？

**A** 感染リスクや感染不安の程度にもよりますが、感染していないことを確実にするためには、感染リスクから2ヶ月以上経過した後の再検査が必要です。

図7



**ウィンドウ期** HIV感染初期で、感染していても検査では陰性となる期間。現在の抗体検査では通常数週間で抗体が検出されるが、安全をみて2ヶ月（さらに安全をみて3ヶ月）と表現されている。

**感染性ウィンドウ期** ウィンドウ期の中で血中にウィルスが存在し輸血によりHIV感染を起こしうる期間を特に感染性ウィンドウ期という。感染性ウィンドウ期は現在の抗体検査では22日、遺伝子検査（NAT: Nucleic acid Amplification Test）ではその半分の11日と計算されている。



## 即日検査受検者へ手渡す資料

この資料は、HIV即日検査や検査結果の意味について受検者に理解してもらうため、また後からでも読み返してもらえるため、受検者へ手渡すことを目的に作成したものです。即日検査実施機関の担当者が、下記の各段階で該当する受検者にそれぞれの資料を手渡ししながら説明をすることを想定して作成してあります。必要であれば、各即日検査実施施設で、それぞれの施設の受検者に適したより使用しやすい資料に改変しご使用下さい。

① 即日検査の説明（検査前） → 即日検査を受検される方へ（様式1）

② 即日検査結果説明（検査当日）

陰性

→ 即日検査が陰性となった方へ（様式2）

陽性（要確認検査）

→ 即日検査が陽性（要確認検査）となった方へ（様式3）

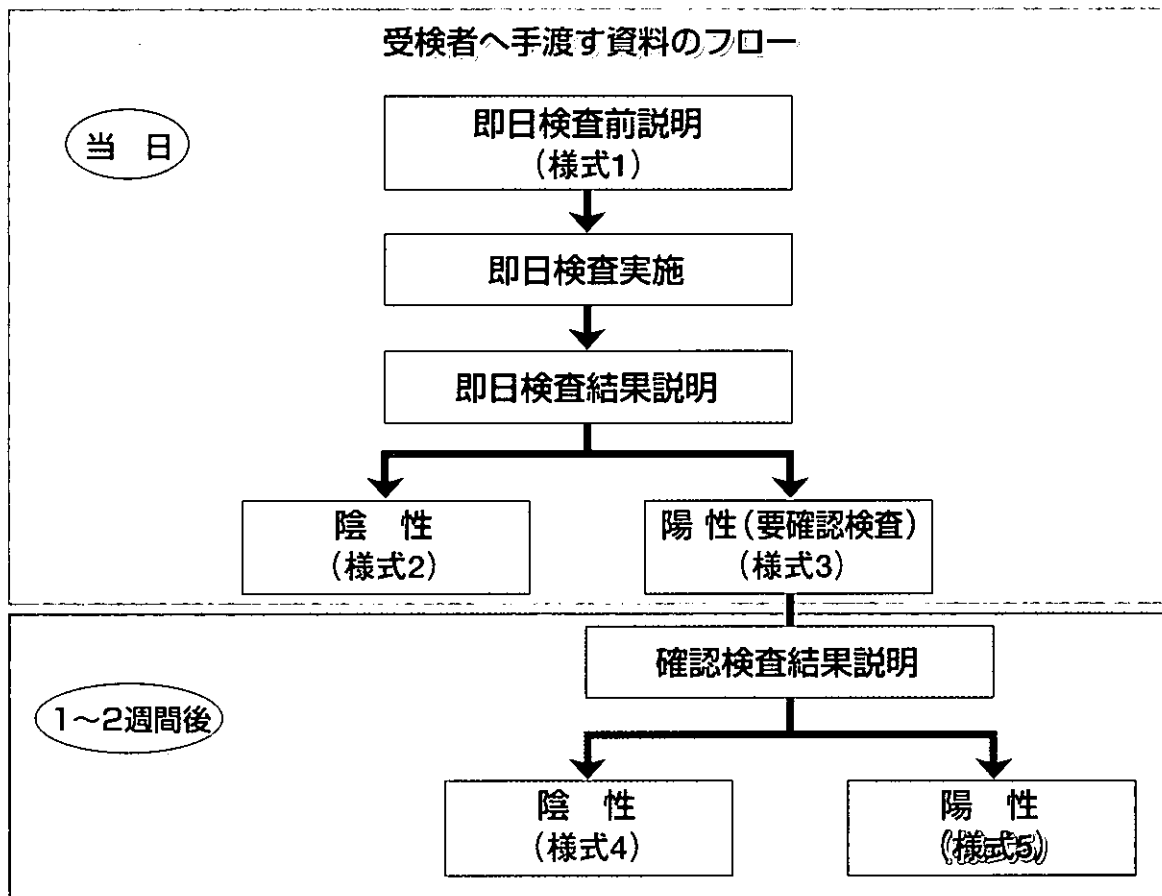
③ 確認検査結果説明（1～2週間後）

陰性

→ 確認検査が陰性となった方へ（様式4）

陽性

→ 確認検査が陽性となった方へ（様式5）



# 即日検査を受検される方へ

## ■HIV即日検査とは？

現在、保健所等でのHIVスクリーニング検査には通常“HIV抗体検査”が用いられています。“抗体検査”は方法が比較的容易で、いろいろな検査キットも開発されており、HIVスクリーニング検査として広く用いられ、信頼性の高い方法です。

即日検査は、この抗体スクリーニング検査法の1つで、迅速診断キットを用いて行います。15分で判定が可能なおことから、皆様にスクリーニング検査結果を検査当日（即日）にお知らせすることができるようになりました。

### 即日検査で 陰性 の場合

感染リスクのある行動から2ヶ月以上経過してから検査を受けた場合は、「HIVに感染していない」ことを意味します。

まだ2ヶ月を経過していない場合は、HIVに感染していないことを確定するためには、2ヶ月以上経ってから、再度検査を受けることをお勧めします。

### 即日検査で 陽性 (要確認検査) となった場合

迅速検査で陽性“要確認検査”となった場合には、より精度の高い方法で確認検査をおこないます。迅速検査では100人に1人(1%)くらいの方が感染していないのに陽性(これを偽陽性といいます)となることがあるため、確認検査により、真の陽性(HIV感染)か、感染していないのに陽性となった“偽陽性”か、確認検査で見分ける必要があります。このため、もし即日検査で陽性(要確認検査)となった場合には、後日(通常1週間から2週間後)確認検査の結果を聞くため再度来て頂くことが必要になります。

## ■感染リスクのある行動からどれくらいの期間が経っていますか？

### 感染リスク のある行動から 2ヶ月以内 の場合

HIVに感染しても感染初期には血液中に抗体やウイルスが検出されない期間(ウィンドウ期間)があります。このため、この感染初期に検査をすると、感染していても検査で陰性となることがあります。

通常は、感染後1ヶ月くらいまでに抗体が検出されるようになりますので、検査で陰性の場合、感染している可能性は低いと思われれます。しかし、検出されるようになるまでの期間には個人差もあるため、検査前2ヶ月以内に感染機会があった場合、感染の可能性を明確に否定するためには、上記のように、感染機会から2ヶ月以上経ってからの再検査が必要です。

●HIV検査に関する情報は…

「HIV検査・相談マップ」ホームページ <http://www.hivkensa.com>

(パソコン、携帯電話(iモード、ezweb、vodafone)からアクセス可)等もご覧下さい。

## 即日検査が陰性となった方へ

### ■ 本日の即日検査の結果は「陰性(いんせい)」でした。

即日検査が陰性ということはHIV(エイズの原因ウイルス)に対する抗体が検出されなかったということです。

HIVに感染すると、1ヶ月から2ヶ月後には必ず抗体が検出されます。

今回の検査は即日検査ですが、抗体の検出感度は通常の検査法とほぼ同等ですから、感染リスクから2ヶ月以上過ぎていれば、HIVに感染していないことを意味します。

つまり、“感染リスクのある行動”(コンドームなしのセックスなど)から、既に2ヶ月以上経過しており、しかもその後は“感染リスクのある行動”をしていなければ、あなたは現在もHIVに感染していないと思われます。今後も(コンドームを適切に使うなど)感染リスクのある行動を避け続ければ、HIVに感染することはなく、今後は検査を受ける必要はありません。

もし最後の感染リスクから2ヶ月以上経過していない場合は、2ヶ月以上たってからもう一度(念のため)検査を受けることをお勧めします。

### ■ 今後の生活で感染の危険・不安を避けるために、次のことを心がけてください。

- 性行為のときは相手の精液・膣分泌液とあなたの粘膜(性器や肛門、口腔)が直接接触しないよう、最初から最後までコンドームを確実に使用してください。
- 他の性感染症(クラミジア・淋菌・梅毒・ヘルペス・尖形コンジロームなど)に感染していると、HIVに感染する可能性が数倍高まります。もし心配があれば、あなたの性交渉の相手も含め、これら性感染症の検査を出来るだけ積極的に受け、必要な場合は治療をすることを心がけてください。性感染症の検査・治療は、男性であれば泌尿器科、女性であれば産婦人科で受けることが出来ます。また、他の保健所において性感染症の検査を実施しているところがあります。

### ■ 今日の検査を受けるきっかけとなった問題や不安は解決しましたか?

あなたが感じた問題や不安は、もしかしたら思い込みによるものかもしれません。逆に、今日の検査結果に安心して、再び感染リスクのある行動をして感染してしまうケースもあります。

どのような行為が感染の危険があり、どのような行為がより安全なのか?もし、疑問が残っているようでしたら、この機会に必ず解決し、今後とも感染のないよう十分気をつけて下さい。

また、あなたの周囲にHIV感染の心配を抱えている人がいるようでしたら、今回の経験を生かし相談にのり、必要があれば検査を受けることを薦めてあげてください。

- HIV検査に関する情報は…

「HIV検査・相談マップ」ホームページ <http://www.hivkensa.com>  
(パソコン、携帯電話(iモード、ezweb、vodafone)からアクセス可)等もご覧下さい。

## 即日検査の結果が陽性(要確認検査)となった方へ

### ■ 即日検査(迅速スクリーニング検査)の結果から、確認検査が必要となりました。

迅速スクリーニング検査では、検査試薬の非特異な反応により、100人に1人くらいの割合で、感染していなくても陽性となることがあります(これを偽陽性と呼びます)。このため、この偽陽性がHIV感染による本当の陽性かを確定するためには、さらに精密な検査(確認検査:ウエスタンブロット検査等)を行う必要があります。この確認検査を衛生研究所において実施しますので、

あなたの確認検査の結果は、\_\_\_\_ 日後に分かります。

年 月 日 ( ) 時に必ず聞きに来て下さい。

#### 。。。▶もし確認検査で「陰性」となったら

本当はHIV抗体陰性でHIVには感染していないことが分かります。

#### 。。。▶もし確認検査で「陽性」となったら

本当にHIV抗体陽性でHIVに感染していることが分かります。

### もしHIVに感染していることがわかった場合には。。。

現在は、治療法の研究がすすみ、感染していても健康を回復したり、維持したりすることができるようになりました。現在の体調に問題がない方も、専門的な治療を受けられる医療機関・医師のもとで、まず現在の健康状態を知り、また今後の健康管理と治療の相談をしてください。受診する病院や医師は自由に選ぶことができます(後で変更もできます)。

#### ○専門病院で受けられる医療

最新の医療情報に基づき適切なアドバイスを受けることができます。治療の主な内容は、定期的な血液検査と内服薬の服用です。薬の処方、血液検査の結果や個人の生活スタイルを考慮してその内容や服薬時期が決められます。

#### ○医療費の支援があります

高額医療費・障害認定・更生医療など、検査や治療にかかった費用を補助する制度があります。専門病院の医療福祉相談員や看護師におたずねください。

#### ○プライバシーの保護について

医療における個人情報保護されています。あなたに無断であなたの個人情報をご家族やパートナーに知らせることはありません。安心して医療機関や各種サービスをご利用ください。

#### ○日常生活について

##### ◎家族への感染予防

食事・入浴・施設の共用など日常生活で感染することはありません(感染力をもつものは血液・精液・膣分泌液・母乳等の体液だけです)から、特に制限はありません。

##### ◎パートナーへの感染予防

セックスでは相手に感染させるおそれがあるのでコンドームを使用するなど予防を確実に行ってください。また、既に感染している可能性のあるパートナーには、できることなら検査を受けることをすすめてあげてください。

## 確認検査の結果が陰性となった方へ

### ■ 確認検査の結果は「陰性」となりました (HIVに感染していないことが分かりました)

即日検査 (迅速スクリーニング検査) では陽性の結果であったため、慎重に精密な検査を行った結果、確認検査では陰性の判定となりました。先日の即日検査での陽性結果は、即日検査で用いている検査法の偽陽性反応によるものと思われます。

確認検査が陰性ということは、HIV (エイズの原因ウイルス) に対する抗体が検出されなかったということです。

HIVに感染すると、1ヶ月から2ヶ月後には必ず抗体が検出されますから、感染リスクから2ヶ月以上過ぎていれば、HIVに感染していないことを意味します。

つまり、“感染リスクのある行動” (コンドームなしのセックスなど) から、既に2ヶ月以上経過しており、しかもその後は“感染リスクのある行動”をしていなければ、あなたは現在もHIVに感染していないと思われます。今後も (コンドームを適切に使うなど) 感染リスクのある行動を避け続ければ、HIVに感染することはなく、今後は検査を受ける必要はありません。

もし最後の感染リスクから2ヶ月以上経過していない場合は、2ヶ月以上たってからもう一度 (念のため) 検査を受けることを薦めます。

### ■ 今後の生活で 感染の危険・不安を避けるために、次のことを心がけてください。

- 性行為のときは相手の精液・膣分泌液とあなたの粘膜 (性器や肛門、口腔) が直接接触しないよう、最初から最後までコンドームを確実に使用してください。
- 他の性感染症 (クラミジア・淋菌・ヘルペス・梅毒・尖形コンジロームなど) があると HIVに感染する可能性が数倍高まります。もし心配があれば、あなたの性交渉の相手も含め、これら性感染症の検査を出来るだけ積極的に受け、必要な場合は治療をすることを心がけてください。性感染症の検査・治療は、男性であれば泌尿器科、女性であれば産婦人科で受けることが出来ます。また、他の保健所において性感染症の検査を実施しているところがあります。

### ■ 今日の検査を受けるきっかけとなった問題や不安は解決しましたか?

あなたが感じた問題や不安は、もしかしたら思い込みによるものかもしれません。逆に、今日の検査結果に安心してしまい、誤解が生じてしまうケースもあります。

どのような行為が感染の危険があり、どのような行為がより安全なのか? もし、疑問が残っているようでしたら、この機会に必ず解決してからお帰りください。

また、あなたの周囲にHIV感染の心配を抱えている人がいるようでしたら、今回の経験を生かし相談にのり、必要があれば検査を受けることを薦めてあげてください。

● HIV検査に関する情報は…

「HIV検査・相談マップ」ホームページ <http://www.hivkensa.com>

(パソコン、携帯電話 (iモード、ezweb、vodafone) からアクセス可) 等もご覧下さい。

## 確認検査の結果が陽性となった方へ

### ■ 確認検査でも「陽性」の判定となりました（HIVに感染していることが分かりました）

即日検査の結果が陽性であったため、慎重に精密な検査を行った結果、確認検査でも陽性であること（HIVに感染していること）が確認されました。

現在は、治療法の開発がすすみ、感染していても健康を回復・維持することができるようになりました。現在の体調に問題がない方も、専門的な治療を提供できる医療機関・医師のもとで、まず「現在の健康状態の把握」を行い、「今後の健康管理と治療の相談」をしてください。受診する病院や医師は自由に選ぶことができます（後で変更もできます）。

保健所でもそのような専門病院の紹介を行っています。

**★現在の体調に問題がなくても放っておくのは危険です。  
最初の受診は必ずこの確認検査直後にしてください。**

### ■ 専門病院で受けられる医療

最新の医療情報に基づき適切なアドバイスを受けることができます。治療の主な内容は、定期的な血液検査と内服薬の服用です。薬の処方、血液検査の結果や個人の生活スタイルを考慮してその内容や服薬時期が決められます。

### ■ 医療費の支援があります

高額医療費・障害認定・更生医療など、検査や治療にかかった費用を補助する制度があります。保健所職員あるいは専門病院の医療相談員やナースにおたずねください。

### ■ プライバシーの保護について

医療における個人情報保護されています。あなたに無断でご家族やパートナーに知らせることはありません。安心して医療機関や各種サービスをご利用ください。

### ■ 情報について

この分野の医療は日進月歩です。新しい情報、正確な情報を主治医や医療スタッフからあるいは信頼できる情報源からお聞きください。

### ■ 今後の日常生活について

#### ◎家族への感染予防

食事・入浴・施設の共用など日常生活で感染することはありません（感染力をもつものは血液・精液・膣分泌液・母乳等の体液だけです）。したがって、日常生活で特に制限の必要はありません。ただ、あなたの体調によってはいろいろな感染症にかかりやすくなっている場合もありますので、体調維持のため衛生的で規則正しい生活を心がけてください。

#### ◎パートナーへの感染予防

セックスでは相手に感染させるおそれがあります。コンドームを使用するなど予防を確実に行うよう十分気をつけて下さい。また、既に感染の可能性のあるパートナーがいる場合には、できることなら検査を受けることをすすめてください。

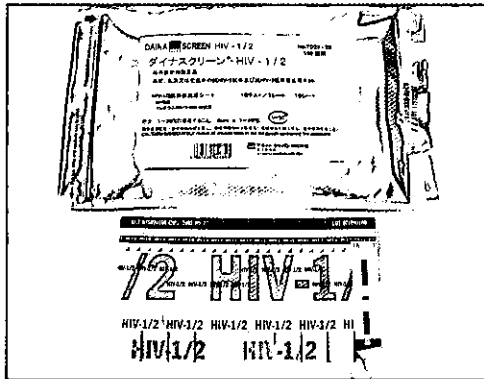
## 紹介医療機関情報

初回の受診は事前に電話であらかじめ確認するとスムーズです。

専門医療機関 (担当医)	
電話番号	
持参するもの	紹介状・保険証・お金
その他	現在、別の病気で治療をしている方は、内服薬など治療の内容を受診時にお知らせください



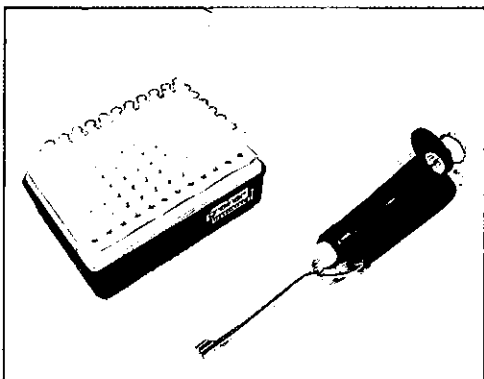
○即日検査に必要なキット・機材○



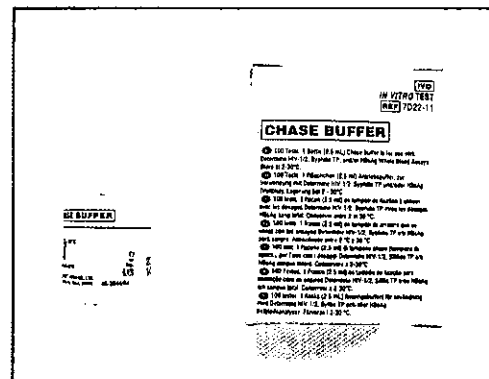
**HIV迅速検査用キット**  
 ダイナスクリーン・HIV-1/2  
 (アボット ジャパン社)



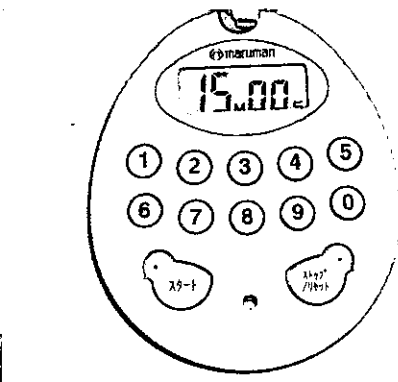
**遠心機**  
 血液から血清・血漿を分離する  
 (全血検体の場合は必要なし)



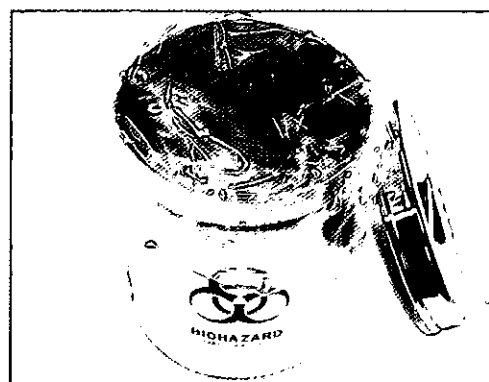
**マイクロピペット、チップ**  
 検体を50μl採取可能なもの



**全血展開液**  
 全血検体を使用する場合に用いる



**タイマー**  
 反応時間15分間を測定する



**チップ捨て**  
 使用したチップを捨てる  
 感染性廃棄物として取り扱う



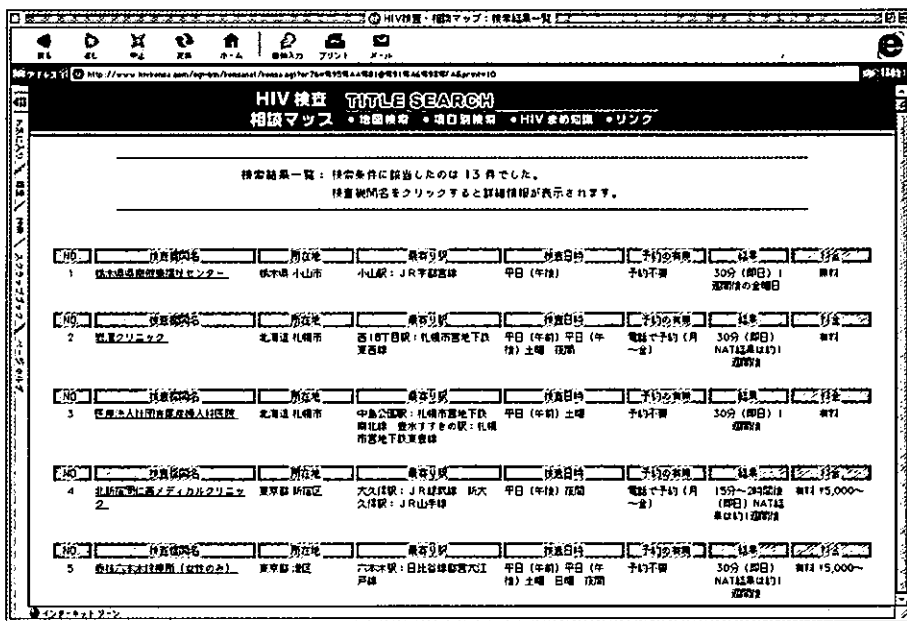
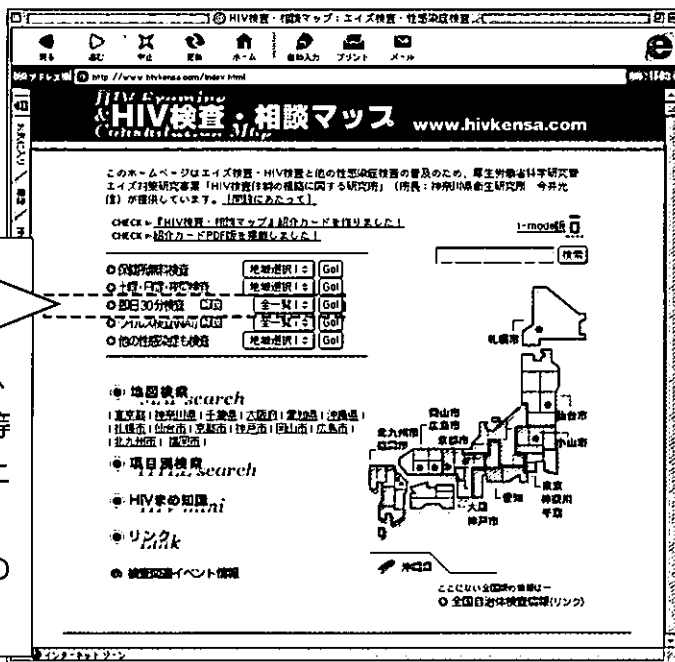
# ホームページ「HIV検査・相談マップ」

http://www.hivkensa.com

〈パソコン、携帯電話(iモード、ezweb、vodafone)からアクセス可能〉

## 即日30分検査

ホームページ「HIV検査・相談マップ」は、首都圏・全国制令都市を中心に保健所等無料検査機関、即日検査実施協力クリニックのHIV検査情報を提供しています。(その他の地域は各自治体のHIV関係のホームページへリンクしています。)



### お願い

ホームページ上で即日検査実施機関リストを掲載しています。今後、即日検査については、地域に関わらずリスト表示(リスト項目:検査機関名、所在地、最寄駅、検査日時、予約の有無、結果返却、料金)で機関情報を紹介していく予定です。

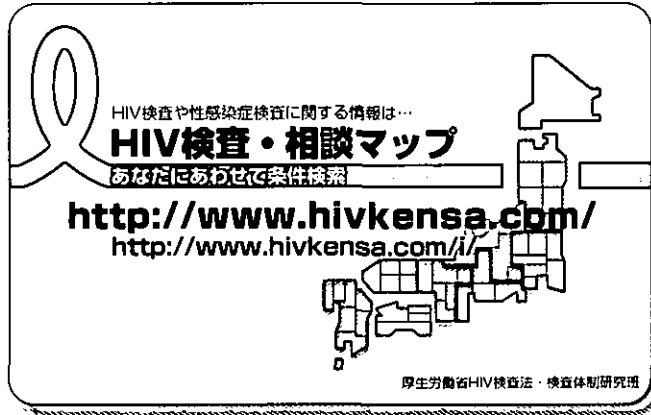
即日検査を実施中または実施予定である機関は研究班までメールにてご一報ください。

連絡先メールアドレス: [web@hivkensa.com](mailto:web@hivkensa.com)

# 「HIV検査・相談マップ」紹介カード

研究班では、ホームページ「HIV検査・相談マップ」をより多くの方に知ってもらうため、HIV関連情報（HIVまめ知識）を掲載した「HIV検査・相談マップ」紹介カードを作成しています。紹介カードはコンパクトなカードサイズ（85mm×53mm）で、現在4種類をご用意しています。

カード表面（全カード共通）サイズ85mm×53mm



（実物大）

## ① ウィンドウ期紹介カード

**HIVまめ知識**

**ウィンドウ期（ウィンドウペリオド）・感染性ウィンドウ期とは何ですか？**

HIVの感染初期には、血液検査で感染の分からない期間があります。これを「ウィンドウ期（ウィンドウペリオド・空白期間）」と呼んでおり、HIV抗体検査では感染した日からおよそ2ヶ月あります。また、ウィンドウ期の中でも血中にウイルスが存在し、輸血により感染が起る危険性のある期間を特に「感染性ウィンドウ期」と呼んでいます。この期間に献血された血液は、輸血した患者さんにHIV感染の危険性があります。HIV感染のリスクのある場合は献血を避けて、保健所等の検査機関でHIV検査を受けてください。

## ② コンドーム啓発カード

**HIVまめ知識**

**HIV検査で陰性ならもう安心??? コンドームは悪い人だけだ...**

**2ヶ月前までの結果です**      **今後のことはあなた次第...**

HIVに感染しても、体内でHIVが増え、抗体ができるまでには、通常4～8週間かかります。HIV検査が陰性であっても、検査前の2ヶ月間にHIV感染の危険性があると、心配が残ります。その場合は念のため、2ヶ月以上経ってから、もう一度検査を受けると安心です。

今までHIVに感染していなかったとしても、「これから大丈夫」と思えるかどうかは、あなたの行動次第です！今までは避がっただけなのかもしれません。「今後も大丈夫」かどうかは、今後、あなたがコンドームを有効に使えるかどうかにかかっています。

◆検査は早期発見・早期治療に役立ちます◆  
HIV検査に関する詳しい検査情報は...  
<http://www.hivkensa.com>

## ③ 性感染症の啓発カード

**HIVまめ知識**

**性感染症にかかっていると、HIVに感染しやすいって本当？**

本当です！淋病、梅毒、クラミジアなどの性感染症（STD）に感染していると、粘膜に炎症を起こしやすくなり、HIVにも感染しやすくなります。「エッチで病気をもらってもエイズじゃなきゃ大丈夫...」なんて油断してはなりません。淋病やクラミジアは症状の出ないことも多く、特に女性の場合、気がつかないで放っておくと、不妊症や子宮外妊娠の原因となることもあります。

HIV検査や性感染症検査に関する詳しい情報は...  
<http://www.hivkensa.com>

性感染症の中には生殖器だけでなく、口やのど、肛門へ感染するものもあります。性感染症の予防のためには、挿入時だけでなく、フェラチオやクニニリングスといったオーラルセックスの時にはコンドームを使うことが大切です（クニニリングスでは、コンドームをハサミで縦向きに切り広げて、膜として使います）。

## ④ 女の子向けカード

**HIVまめ知識**

**知っていますか？ 万が一の時の「緊急避妊」と「性感染症検査」**

男女間のセックスで「コンドームが破けてしまった・取れてしまった！」「コンドームが使えなかった...」という場合には、妊娠の可能性とともに、性感染症の可能性もあります。

**緊急避妊**

緊急避妊としての「緊急避妊」を知っていますか？ 72時間以内に必要量の女性ホルモン剤を服用する方法や子宮内避妊具を使うことで妊娠を防ぐ効果があります。詳しい情報/病院の紹介は...  
（社）日本家庭計画協会  
<http://www.jpfa-clinic.org>  
ビルダイヤル 03-3267-7778  
（月～金 10時～16時）  
（匿名・無料です）

**性感染症検査**

「コンドームをつけなかった、破けてしまった」時のセックス、オーラルセックスでは、生殖器・口のどこに性感染症がうつる可能性があります。症状が分かりにくい病気もあり、知らずに放っておくとパートナーや赤ちゃんに感染したり、また不妊の原因になることもあります。  
性感染症やHIV検査に関する詳しい情報は...  
<http://www.hivkensa.com>

紹介カードのご利用を希望される方は、ホームページ「HIV検査・相談マップ」（<http://www.hivkensa.com/>）からお申し込み下さい。またホームページ上にカード印刷用ページ（PDF）も用意しておりますので、是非ご用意下さい。

このガイドラインは、平成15年度厚生労働科学研究費補助金  
エイズ対策研究推進事業の研究成果等啓発普及事業として、  
作成したものです。

## 保健所等におけるHIV即日検査のガイドライン

---

発行 平成16年3月

### 編 集

HIV検査体制の構築に関する研究班事務局  
神奈川県衛生研究所  
〒253-0087 神奈川県茅ヶ崎市下町屋1-3-1  
web@hivkensa.com  
http://www.hivkensa.com

### 印 刷

有限会社 長谷川印刷 (デザイン:江尻ちえ子)  
〒232-0017 神奈川県横浜市南区宿町2-38 TEL 045-711-5286



## 保健所等におけるHIV即日検査のガイドライン